

## ジェロントロジー（老年学）研究に関する助成の決定と ジェロントロジー研究報告No. 13の発行について

公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団（理事長 二宮 雅也、以下「損保ジャパン日本興亜福祉財団」）は、2018年度ジェロントロジー研究助成として、17件の対象者に合計約825万円の助成を決定しました。また前回（2016年度）の助成による研究成果を取り纏めた「ジェロントロジー研究報告No. 13」を発行しました。

### 1. ジェロントロジー研究助成の概要

損保ジャパン日本興亜福祉財団が実施しているジェロントロジー研究助成は、高齢者福祉の増進に資することを目的にジェロントロジーに関する社会科学・人文科学分野における研究に助成を行う事業です。今年度は、2018年4月から7月にかけて公募したところ、50件の応募があり、17件（1件50万円上限）の助成を決定しました。本助成は1993年より隔年で実施しており、昨年までの24年間で助成先は累計234件、助成額は合計約1.5億円となっています。

### 2. 助成金贈呈式の開催予定

助成金の贈呈式は、首都圏地区の助成先を対象に損害保険ジャパン日本興亜株式会社の本社ビルにて、2018年11月に開催する予定です。

### 3. 研究報告の発行

前回（2016年度）の助成による研究成果を「ジェロントロジー研究報告No. 13」（B5版・148ページ）として発行しました。本報告書には15件の研究成果が収められており、高齢者の社会活動、介護者のスキルの向上など幅広い研究テーマを取り上げています。

#### <損保ジャパン日本興亜福祉財団について>

損保ジャパン日本興亜福祉財団は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社の出捐を受け、社会貢献活動の一翼を担う財団として設立された公益法人です。同財団の主な活動は本研究助成のほか、社会福祉・社会保険・損害保険の研究会や講演会の開催、わが国における優れた社会福祉学術文献の表彰（「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」）およびこの受賞者による講演会・シンポジウムならびに介護福祉士養成のための奨学金の給付などを行っています。

※共同研究の場合代表研究者

| 形態 | 対象者※   | 所属                                    | 研究テーマ   |
|----|--------|---------------------------------------|---|
| 単独 | 青木 由香  | お茶の水女子大学大学院<br>人間文化創成科学研究科<br>大学院生    | 中年期未婚子の介護と就業の両立—就業形態・介護態勢の異同をふまえた介護者支援策の検討—                     |
| 単独 | 畦地 良平  | 日本大学大学院<br>文学研究科心理学専攻<br>大学院生         | 介護職員のワークエンゲイジメントおよびバーンアウトの関連要因およびそのアウトカムについての研究                 |
| 共同 | 五十嵐 歩  | 東京大学大学院<br>医学系研究科<br>健康科学・看護学専攻<br>講師 | 地域高齢者支援におけるコンビニエンスストアとの協働を推進する研修プログラム活用の効果                      |
| 共同 | 池田 恭敏  | 茨城県立医療大学<br>准教授                       | ドライブレコーダーを活用した参加型高齢ドライバー—安全運転教育の効果                              |
| 共同 | 石川 信仁  | 京都大学大学院医学研究科<br>大学院生                  | 地域高齢者における予防的介入が要介護度の発生に及ぼす影響に関するコホート研究                          |
| 共同 | 板倉 有紀  | 秋田大学<br>高齢者医療先端研究<br>センター             | 地域での認知症のケアサイクルにおける住民参加と行政保健師の専門性に関する社会学的研究——秋田県内での社会実装のために——    |
| 共同 | 岡本 希   | 兵庫教育大学大学院<br>准教授                      | 介護者の健康問題のリスク評価とナラティブ・アプローチに基づく介護負担感、自尊感情、睡眠の改善を目的とした介入研究        |
| 共同 | 佐久間 美里 | 名古屋大学大学院<br>医学系研究科看護学専攻<br>大学院生       | 通所介護施設における認知症高齢者の行動・心理症状に関する実態調査                                |
| 単独 | 佐藤 惟   | 東京福祉大学<br>助教                          | 地域の居場所におけるアドバンス・ケア・プランニングの可能性——高齢者と専門職による学びの場の創出に向けたアクションリサーチ—— |
| 単独 | 佐野 知世  | 順天堂大学<br>保健看護学部                       | 認知症高齢者のBPSDの緩和過程の分析と迅速な緩和の方法                                    |
| 共同 | 田淵 恵   | 中京大学心理学部<br>助教                        | 乳幼児期の子どもとの触れ合いが高齢者にもたらす心理的影響——「ケアされる立場」から「ケアをしたい気持ち」の創発へ——      |
| 単独 | 田村 直子  | 高崎健康福祉大学大学院<br>健康福祉学研究科<br>大学院生       | グリーンケア充実に向けての在宅看取りを支える専門職協働実践（Inter-professional Work）構築        |
| 共同 | 藤田 小矢香 | 島根県立大学<br>看護栄養学部看護学科<br>准教授           | 離島在住高齢者の認知機能と隠れ心不全の関連——軽度認知障害に隠れ心不全は原因となりうるか？——                 |
| 単独 | 村山 陽   | 東京都健康長寿<br>医療センター研究所<br>研究員（主任）       | 地域の世代間援助における互恵性に関する研究——都市部における世代間援助は、どのように持続しうるのか               |
| 共同 | 山上 優紀  | 奈良県立医科大学<br>疫学予防医学講座<br>助教            | サルコペニア・フレイル予防のための身体活動リズムの検証                                     |
| 共同 | 若林 和枝  | 国際医療福祉大学<br>小田原保健医療学部<br>看護学科<br>講師   | 在宅認知症高齢者の福祉用具利用状況とリスクマネジメントのあり方——介護支援専門員と福祉用具専門相談員へのアンケート結果より—— |
| 共同 | 和氣 大成  | 埼玉医科大学総合<br>医療センター<br>助教              | 健常高齢者および軽度認知障害患者に対する発症前診断告知の影響——認知症の効果的な告知マニュアル作成に向けて——         |

※共同研究の場合代表研究者

| 形態 | 対象者※   | 所属                                       | 研究テーマ  |
|----|--------|--|--|
| 共同 | 伊藤 直子  | 日本医療科学大学<br>保健医療学部<br>准教授                | 高齢者の嚥下機能に及ぼす呼吸筋トレーニングの効果   |
| 共同 | 伊藤 美智予 | 名古屋大学予防早期<br>医療創成センター<br>准教授             | 災害時における認知症ケアマネジメントに関する研究   |
| 共同 | 井上 忠俊  | 済生会大野城市<br>南デイサービス南風<br>作業療法士            | 地域在住高齢者における眼球運動と歩行の変動性の特徴<br>－認知症早期発見に対する評価手法の妥当性の検討－                        |
| 単独 | 大木 裕子  | 東洋大学<br>ライフデザイン学部<br>教授                  | 文化の消費者として的高齢者<br>－「大人の遊び場」創出による豊かな生活の実現－                                     |
| 共同 | 岡崎 研太郎 | 名古屋大学大学院<br>医学系研究科地域医療<br>教育学寄付講座<br>講師  | 要介護・要支援の在宅高齢者を対象とした参加型演劇ワークショッププログラムの改良と効果の検証<br>－社会実装を見据えて－                 |
| 共同 | 岡村 毅   | 東京都健康長寿<br>医療センター研究所<br>研究員              | 認知症の人の社会的包摂を実現するための稲作ケアの試み   |
| 共同 | 小倉 真衣  | 京都大学大学院<br>医学研究科人間健康科学系専攻<br>大学院生        | 中山間地域在住高齢者の意図的な社会的孤立とフレイルおよびQOLの関連に関する研究                                     |
| 単独 | 木村 由香  | 横浜国立大学大学院<br>環境情報学府<br>大学院生              | 高齢者が終活を進めるうえでの課題と支援のあり方に関する研究  |
| 単独 | 榊原 良太  | 鹿児島大学法文学部<br>准教授                         | 高齢者の幸福感の上昇はいかにもたらされるのか<br>－感情制御発達という視座からの検討－                                 |
| 共同 | 鈴木 淳一  | 東京大学大学院<br>医学系研究科<br>先端臨床医学開発講座<br>特任准教授 | ヒト型ロボットによる認知症患者の認知機能の改善効果の検討   |
| 共同 | 高橋 幸裕  | 尚美学園大学<br>総合政策学部<br>総合政策学科<br>専任講師       | 介護現場における介護職と看護職による「看取り」と「死」の持つ意味の差異を踏まえたケアの提供方法と連携方法の構築に関する研究                |
| 単独 | 長尾 匡子  | 京都橘大学大学院<br>看護学研究科<br>大学院生               | 高齢者の終末期医療についての意思決定に関わる看護師への支援プログラムの評価<br>－インフォームド・コンセントにおける専門職としての役割遂行を目指して－ |
| 共同 | 永野 志歩  | 高知大学 医学部<br>神経精神科学教室<br>助教               | 老年期の軽度認知障害者とADHDの有病率の検討  |
| 単独 | 野坂 真   | 早稲田大学大学院<br>文学研究科<br>大学院生                | 災害後の地域社会における高齢者の生きがいづくりと経験・記憶の継承に関する実践的研究<br>－岩手県大槌町における地域アーカイブ活動を中心事例として－   |
| 共同 | 原田 和弘  | 神戸大学大学院<br>人間発達環境学研究科<br>特命助教            | ワーク・エンゲイジメントが高齢夫婦の満足度・精神的健康に及ぼす影響  |